

# 第5回 日本不育症学会学術集会

テーマ 不妊と不育と周産期をつなぐ

学術集会長 山田 秀人 手稲溪仁会病院不育症センター  
副会長 遠藤 俊明 札幌医科大学産婦人科

会期 令和5年7月15日(土)～16日(日)  
現地開催(後日オンデマンド)

会場 手稲溪仁会病院 溪仁会ビル

〒006-8555 札幌市手稲区前田1条12丁目1番40号



## ご挨拶

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、第5回日本不育症学会学術集会を令和5年7月15日（土）～16日（日）の2日間にわたり、医療法人溪仁会手稲溪仁会病院 溪仁会ビルにて開催させていただきます。北海道で初めて開催される学術集会となり、大変光栄に存じます。

本学会では、流産や死産を繰り返す習慣流産、および抗リン脂質抗体症候群を含む不育症の研究と医療技術の発展および知識の交流を図ることを目的として、毎年学術集会を開催しております。現在、会員数は全国で200人以上にのぼり、令和3年度から不育症認定医制度が始まっておりますが、北海道では不育症認定医資格を有するのは、まだ2人のみの状況です。

学術集会長 山田秀人、副会長 遠藤俊明によって、北海道ゆかりの不妊、不育、周産期の専門家による選りすぐりのプログラム委員会を結成しました。不育症認定医の増加につながるよう、また学識と交流が深まる有意義な学術集会となるように準備を行なっております。

メインテーマを「不妊と不育と周産期をつなぐ」といたしました。不育症では、妊娠が成立し良好に経過して母児ともに健康で出産にいたるためのケアを心がけながら、日常から医療を行なっています。

不育症の病理には、内分泌代謝、免疫、遺伝、止血血栓、微生物、手術、精神神経、倫理など多様な領域が関与しつつ、不妊症から反復着床不全、繰り返す生化学的妊娠との連続性があり、妊娠が成立した後でさえ周産期帰結にまでその病因が影響をおよぼします。

それぞれの専門領域だけではなく、妊娠できない女性が妊娠されて、流死産や妊娠合併症のリスクが減り、安心安全な妊娠出産と健康な出生児につなぐ、不妊と不育と周産期のためのプレコンセプションケア、そしてポストコンセプションケアが患者にとって一番大切であると言えます。

本学術集会では、ワークショップとして、「着床・妊娠成立における免疫寛容」、「不育症領域における慢性子宮内膜炎、子宮内フローラ検査異常の病因的意義を考える」、「不育・不妊症例に対する子宮中隔切除術の意義の検討」の他、着床前診断、免疫グロブリン療法、抗リン脂質抗体、ネオセルフ抗体、プロテインS、細菌性膣症、プレバイオティックスに関するセミナーや教育講演を企画いたします。さらなる原因解明や治療法とエビデンス確立によって不育症を究めることが、より良好な妊娠帰結につながります。

北海道で一番良い季節に合わせて会期を設定いたしました。ぜひお越しいただき、不育症学を盛り上げていただきたく、お願い申し上げます。

皆様と北海道でお会いできることを楽しみにしております。

謹白

令和4年5月吉日

第5回日本不育症学会学術集会  
学術集会長 山田 秀人  
手稲溪仁会病院 不育症センター長

<会長> 山田秀人 手稲溪仁会病院不育症センター  
<副会長> 遠藤俊明 札幌医科大学産婦人科

<プログラム委員会>以下、敬称略

東口篤司 札幌エンドメトリウムリサーチ  
金谷美加 美加レディースクリニック  
馬場 剛 札幌医科大学産婦人科  
逸見博文 斗南病院婦人科生殖内分泌科  
水無瀬学 旭川医科大学産婦人科  
水内将人 みずうち産婦人科/神谷レディースクリニック  
出口雅士 神戸大学産科婦人科  
和田真一郎 手稲溪仁会病院産婦人科  
三國雅人 札幌厚生病院婦人科生殖内分泌科  
島田茂樹 マミーズクリニックちとせ  
武田真光 ペルル女性クリニック

<オブザーバー>

島野敏司 中標津町立病院産婦人科  
小野寺英雄 手稲溪仁会病院経営管理部